

Ⅱ 実践編

～平成26年度授業改善プロジェクトの取組より～

1 授業改善プロジェクト

概 要

【目 的】

授業改善プロジェクトチームによる検討会議や授業改善の実践、作業学習エキスパート養成研修会を通して、作業学習の在り方や授業改善の要点を明らかにするとともに、各特別支援学校における作業学習の中核となる人材を養成する。

【概 要】

1 授業改善プロジェクト会議

- ・内 容 作業学習の在り方や授業改善の要点の検討・まとめ
(県教育研究発表会での発表、作業学習ガイドの作成)
- ・回 数 年5回
- ・参加者 特別支援教育課指導主事2名
教育専門監4名：小笠原 英紀(比内)、新目 敏子(栗田)、
宮野 俊実(ゆり)、神部 守(大曲)

2 授業検討会及び授業研究会

- ・内 容 作業学習(木工・農園芸・ビルクリーニング)の授業検討・授業研究
- ・回 数 各1回
- ・授業者 平成25年度作業学習エキスパート養成研修会受講者(各作業種1名)
木 工(小山 高志：ゆり)、農園芸(石川 裕子：大曲)
ビルクリーニング(小松 良平：栗田)
- ・参加者 授業改善プロジェクト会議のメンバー
各校推薦の作業学習担当者(授業研究会のみ)
- ・会 場 授業者の所属校

3 作業学習エキスパート養成研修会

- ・内 容 全体研修と作業種別研修(木工、農園芸、ビルクリーニング、陶芸、縫製)
- ・回 数 全体研修1回、作業種別研修各1回
- ・参加者 各校推薦の作業学習担当者(昨年度受講者を除く)
- ・会 場 県庁第二庁舎、特別支援学校、高等学校等

今年度からの授業改善プロジェクトでは、昨年度の課題の一つであった授業の設計「授業デザイン」を重視することにした。具体的には、単元・題材設定の理由やその単元・題材を通じて付けたい力を明確にすることなどである。

2 授業検討会及び授業研究会

概 要

【提示授業の概要】

回	概 要	授業検討日
1	○ビルクリーニング作業～9月29日（月）県立栗田養護学校 ・高等部環境・福祉科1年A組 流通・サービス ・題材名「清掃用具の取り扱い方⑤～フロアスクイジー～」 ・指導者：小松 良平、佐藤 美白	8月25日（月）
2	○木工作業～10月1日（水）県立ゆり養護学校 ・高等部普通科 作業学習（木工班） ・単元名「ままごとキッチンづくりⅡ～ゆり養祭に向けて～」 ・指導者：小山 高志、京屋 敦、佐々木 正則	8月22日（金）
3	○農園芸作業～10月14日（火）県立大曲養護学校 ・高等部普通科 作業学習（農耕班：校内作業グループ） ・題材名「花を育てよう～夏・秋の花壇整備～」 「野菜を作ろう～丸ナスとシソの実の収穫～」 ・指導者：石川 裕子、高橋 典子、小助川 明	8月5日（火）

【授業検討会】

- 参加者：授業者、教育専門監、担当指導主事
- 内 容：年間指導計画、学習指導案等の検討

授業デザインの課題解決に向け、年間指導計画の検討から行った。年間目標や単元・題材目標の具体化、年間目標達成に向けた単元・題材の配列、単元・題材設定理由の明確化、作業工程・作業内容の十分な分析による目標の明確化等について確認した。

【授業研究会】

- 参加者：授業者、教育専門監、担当指導主事、知的障害特別支援学校各1名
(H25・26作業学習エキスパート養成研修会受講者)
- 内 容：授業参観、協議
- 協議題：「授業デザイン（年間指導計画や単元・題材計画作成）の改善について」

参加者の各取組～授業デザインを中心に～

授業研究会	作業学習 エキスパート養成研修会
事前提出 ・協議題に関する具体的な課題や取組状況(400字) 当日(協議) ・「授業デザインの改善」 事後アンケート ・授業デザインの改善の要点と具体的取組 ・中核となる教員としての取組	全体研修(演習) ・自校作業種の単元の振り返り(授業デザイン:実態把握、教材研究、指導計画、評価) 種目別研修(まとめ) ・各自の作業種で生かすこと(授業実践、授業デザイン等) 実践記録提出 ・改善計画と実際、成果、課題

参加者が「授業デザイン」への意識を高くもって取り組めるように、上記のとおり授業研究会と作業学習エキスパート養成研修会の取組を関連させた。

2 授業検討会及び授業研究会

授業改善の資料 「特別支援教育のミニマムスタンダードより」

A 授業デザインチェックリスト

期 日		単元(題材)名	
授業者		評価者	

評価基準 : 4 (よい) - 3 (概ねよい) - 2 (やや不十分) - 1 (不十分)

	番号	評 価 内 容	評 価
子 ど も 理 解	1	学習や生活の様子、取りまく環境、興味・関心等、実態を多面的に把握している。	4-3-2-1
	2	得意なことを伸ばし、苦手なことは「〇〇があればできる」という視点でとらえている。	4-3-2-1
単 元 (題 材) 設 定	3	「個別の指導計画」→「年間指導計画」→「単元毎の計画」を踏まえて指導案を作成している。	4-3-2-1
	4	子どもの発達の段階に応じた単元(題材)である。	4-3-2-1
	5	子どもの興味・関心に基づいた単元(題材)設定になっている。	4-3-2-1
	6	単元(題材)を通して育てたい力(目標)が明確である。	4-3-2-1
	7	単元(題材)の内容は、現在または将来の生活と結び付いている。	4-3-2-1
	8	単元(題材)を通して各学習活動のねらいが明確である。	4-3-2-1
	9	集団の活動としてゴールが明確な単元(題材)構成になっている。	4-3-2-1
	10	少し難しく、挑戦したいと思える課題が設定されている。	4-3-2-1
教 材 研 究	11	単元(題材)の目標に迫るため、適切な教材が検討されている。	4-3-2-1
	12	何をどのように指導するかという教材の意図が明確になっている。	4-3-2-1
	13	補助具や環境設定の工夫により、一人で活動できる場面づくりがなされている。	4-3-2-1
指 導 計 画 ・ 内 容	14	単元(題材)を通して、知識や技能を獲得するための活動量が保証されている。	4-3-2-1
	15	一人一人が主体的に考えて、判断し、表現したり活動したりする場面を確保している。	4-3-2-1
	16	障害への配慮や認知特性を生かすなど一人一人の学びやすさに対応している。	4-3-2-1
	17	やり直しや繰り返し行うことができる内容である。	4-3-2-1
	18	一人一人に応じて、内容に易から難、少から多、粗から細などの過程や段階、種類がある。	4-3-2-1
	19	指導方針や効果的な支援のための教師の役割が明確である。	4-3-2-1
コ メ ン ト			

※コメントには主に改善案を記入する。必要に応じて、項目番号を記入する。

※各教科等、本時の授業内容等によって評価できない場合は、項目番号に斜線を引き、評価欄は無記入とする。

2 授業検討会及び授業研究会

授業改善の資料 「特別支援教育のミニマムスタンダードより」

B 授業実践チェックリスト

期 日		単元(題材)名	
授業者		評価者	

評価基準 : 4 (よい) - 3 (概ねよい) - 2 (やや不十分) - 1 (不十分)

教師の基本姿勢	1	健康・体調、安全や衛生面への配慮を十分行っている。	4-3-2-1
	2	明るく、落ち着いた雰囲気をつくっている。	4-3-2-1
	3	子どもからの反応や発信に気付き、受け止めている。	4-3-2-1
	4	子どもの気持ちや思考に寄り添い、一緒に取り組んでいる。	4-3-2-1
	5	言葉遣いや態度など、場に適した対応をしている。	4-3-2-1
学習のねらい及び学習活動の設定	6	単元や子どもの実態を踏まえ、本時のねらいが適切に設定されている。	4-3-2-1
	7	本時の学習内容や難易度の設定が適切である。	4-3-2-1
	8	本時の学習量や学習時間・時間配分の設定が適切である。	4-3-2-1
	9	本時の学習に対する成就感と次時への期待感をもてるようまとめている。	4-3-2-1
環境・設定及び教材・教具等	10	教室内の学習環境が整っている。	4-3-2-1
	11	分りやすく板書や提示がされている。	4-3-2-1
	12	教材・教具が適切である。	4-3-2-1
	13	必要に応じて、子どもの発信を支える教具等を用意している。	4-3-2-1
説明・教示・評価等	14	学習に対する見通しや意欲をもてるようにしている。	4-3-2-1
	15	要点をしばり、具体的かつ簡潔に伝えている。	4-3-2-1
	16	気付きや思考、イメージ化を促す働き掛けをしている。	4-3-2-1
	17	T1として全体を把握しながら、T2と連携して授業を行っている。	4-3-2-1
	18	T2として、T1と連携し子どもの動きに応じた指導をしている。	4-3-2-1
	19	子どもが理解しているか、活動できているか見届けている。	4-3-2-1
	20	努力や成果、態度などを的確に、場を捉えて認めている。	4-3-2-1
コメント			

※コメントには主に改善案を記入する。必要に応じて、項目番号を記入する。

※各教科等、本時の授業内容等によって評価できない場合は、項目番号に斜線を引き、評価欄は無記入とする。

2 授業検討会及び授業研究会

授業研究会の助言の要点等

【木 工】～参加者16名

○協議の視点

- ・作業量の確保、学部・学年等に応じた目標設定、販売以外の取組

○助言の要点

- ・学習指導要領の理解（各教科等の意義・目標・内容等）
- ・十分な工程分析による付けたい力の明確化
- ・年間指導計画の吟味（事前事後の時間確保、教科「職業」との関係）

【農園芸】～参加者17名

○協議の視点

- ・作業量の確保、学部・学年等に応じた目標設定
地域の人材や特産品の生かし方、播種から販売までの一連の活動、冬期間の作業内容

○助言の要点

- ・学習指導要領の理解（各教科等の意義・目標・内容等）
- ・十分な工程分析による付けたい力の明確化
- ・年間指導計画の吟味（個々の学びの積み重ねが分かる指導内容）
- ・障害の重い生徒や他の障害を併せ有する生徒への十分な配慮
- ・中学部と高等部の作業学習の違いの理解



【ビルクリーニング】～参加者15名

○助言の要点

- ・学習指導要領の理解（各教科等の意義・目標・内容等）
- ・年間指導計画の吟味（内容や場の選定、単元の積み重ね方）と評価・改善
- ・種目の特性理解（段階的指導が可能、基本技術の大切さ）
- ・校内作業と校外作業の関連のさせ方（校内作業の目標設定の明確化）
- ・生徒の課題意識のもたせ方（めあての設定）
- ・特色ある取組を学校全体に生かす（清掃活動のノウハウや人材活用）

授業改善プロジェクトの目的の一つである「中核となる人材の養成」に向け、授業研究会3か月後に取組内容を参加者に調査し、右記のとおり整理した。中核となる人材には、自分自身の取組にとどまらず、学校としての力量向上に向けた取組が期待される。

作業学習の中核人材としての取組

自分自身の力量向上のために

- ・主体的な研修と教材研究の継続

学校としての力量向上等のために

- ・校内職員へ（所属作業班、同学部・他学部職員）
実践紹介、情報提供、企画・提案、助言、引継ぎ
- ・外部人材や地域の関係者・団体等とのつなぎ

2 授業検討会及び授業研究会

提示授業の紹介

～木工作業の実践～

高等部普通科 作業学習（木工班）

単元「ままごとキッチンづくりⅡ～ゆり養祭に向けて～」

秋田県立ゆり養護学校 教諭 小山 高志

【単元の要旨・特徴】

今年度、年間を通して幼児向け玩具「ままごとキッチン」を製作している。Ⅱ期に当たる本単元では、ゆり養祭（学校祭）での販売に向けて10台製作することを通し、量産のための工夫や自分の工程に責任をもつことを強く意識して取り組むことをねらった。具体的な取組として、班内での技能検定を実施し、合格した生徒はその工程における教師への検品を免除し、自分で仕上がりの最終判断ができるようにした。これにより、目的意識が高まり、自分の作業に自信と誇りをもって、より意欲的に取り組む様子が見られるようになった。



1 生徒の実態

本作業班は、1年女子2名、2年男子2名、3年男子2名の計6名である。2・3年の4名は、卒業後の進路として一般就労を目指すIコースに所属し、1年2名も2年生から所属予定である。単元「ままごとキッチンづくりⅠ」（以下、単元Ⅰ）における実態は、ゆっくりであるが丁寧に作業をする生徒と、速さはあるが多少雑な作業をする生徒と半々である。1年生は年度当初、機械操作に不安をもっていたものの、回数を重ねるうちに抵抗なく取り組めるようになってきた。2、3年生は、4名とも木工作業に強い興味をもっており、機械操作や道具の使い方をすぐに覚えて作業を進めている。全体的に、自分の得意な工程が分かりはじめ、意欲的に取り組めるようになってきている。

2 単元設定の理由

「ままごとキッチン」は、幼児から小学校低学年程度の子どもの対象とした玩具である。一般市場ではここ数年、インターネット販売を中心に、小さな子どもをもつ親や孫がいる高齢者のニーズが高く、多くの需要が見込まれる製品である。販売対象を絞った製品づくりは、買い手の姿や使い手の遊んでいる様子を生徒が想起しやすく、自分たちで品質向上の要点を考えたり、販売方法や宣伝の仕方の考えを出し

合ったりするなど意欲をもって取り組むことができると思う。

単元Ⅰでは、地域の道の駅等での販売に向けて8台の製品づくりに取り組み、各工程に分かれてライン作業を経験したり、納期を意識して作業を進めたりする必要性について学習した。本単元では、ゆり養祭での販売に向けて製品づくりに取り組む。ゆり養祭は年間の販売活動の中で最も多くの購入者が見込まれる機会である。生徒が量産を意識し、効率よく作業を進める必要性を感じ取ることができるように、前単元よりも2週間短い期間で10台製作する。生徒同士が一つの目的に向かい、自分の工程に責任と自信をもって取り組む経験をする中で、達成感や働く意義を感じられるのではないかと考え、本単元を設定した。

3 単元の目標

- (1) ゆり養祭での作業製品販売会に向け、製品の特徴について理解を深め、部材の切断ややすりがけ、塗装等の精度を高めることを意識して意欲的に製品づくりに取り組む。
- (2) 単元Ⅰの経験を通し、自分の担当工程に責任と自信をもって取り組むとともに、準備から後片付けまで自主的に進める。

4 単元の指導計画（総時数47時間）

- | | |
|-----------------------------------|---------------|
| (1) ゆり養祭に向けた目標生産台数の設定 | 1 時間 |
| (2) ままごとキッチンづくり ※技能検定（4時間に1名程度実施） | 38時間（本時10/38） |
| (3) ゆり養祭販売準備 | 4 時間 |
| (4) ゆり養祭販売を振り返って | 4 時間 |

5 本時の授業

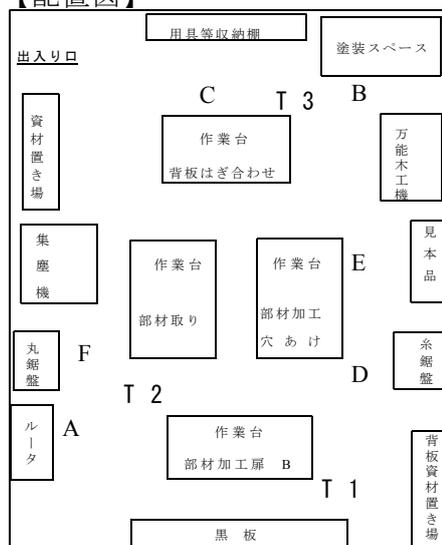
(1) 目標

- ①生徒が自分の担当する工程の目標出来高を意識して作業を進め、時間内に達成する。
- ②判断が必要な場面で、まずは自分で考え、その答えと根拠を教師に説明する。

(2) 展開

時間	学習活動
5分	※3, 4校時からの続き ①午後の作業内容や目標出来高を確認する。
40分	②各工程に分かれて製作する。 生徒A：部品加工（天板、中板、底板のルータがけ） 生徒B：塗装（背板） 生徒C：組立（背板はぎ合わせ） 生徒D：部品加工（扉Bの窓くりぬき） 生徒E：部品加工（側板の下穴、ダボ穴あけ） 生徒F：部材取り（背板）
5分	③本時の出来高確認と、自分の取組の評価、まとめを行う。※6校時に続く

【配置図】



(3) 実 際

授業の始まりに、短時間ミーティングを開き、目標出来高や前時までの進捗状況を確認した。この際、6人中5人の生徒が、前時の終了時に自分でメモした内容を見ながら発表したことから、メモ帳を活用する習慣が身に付いてきたと思われた。

技能検定については、本時が2回目の実施であったが、対象生徒は、前時に渡した検定の観点表を寄宿舎に持ち帰り、何度も確認してから本時の検定に臨むなど、緊張感をもって取り組む様子が見られた。また、授業の終わりのミーティングで検定合格の結果を聞き、喜びと達成感あふれる表情を浮かべていた。

授業全体を通じて、道具や資材の置き場所、立ち位置、仕事の優先順位など、自分で考えて工夫する様子が多く見られ、教師から、なぜそうしたのかを質問されても、その理由をしっかりと答えることができていた。



【ミーティングの様子】



【部材取り工程の様子】

6 単元の成果と課題

(1) 生徒の変容

本単元では、高等部の研究とも関連させ、「考えて行動する」習慣を身に付けることを念頭に置いて指導に当たってきた。生徒から質問を受けた際は、「あなたならどうする」などと問いかけ、考えを聞いてから説明することを徹底した。同時に卒業後の生活を意識してメモ帳の活用を推奨し、気付いたこと、気を付けること、材料の寸法等を全てメモするように促した。これにより、単元のはじめの頃は、「次は何をすればいいですか」と質問してきた生徒が、「次は〇〇をすればいいと思いますが、それでいいでしょうか」「予定の作業は終わりましたが、他に糸鋸盤を使う作業はありますか」などと、常に考えて行動する、考えて話をするという姿が見られるようになった。また、技能検定に合格した生徒は、他の工程を担当している生徒に、工程間のつながりを円滑にするために直接要求を伝えたり、品質を向上させるために助言をしたりするなど、教師を介さないやりとりが見られるようになった。

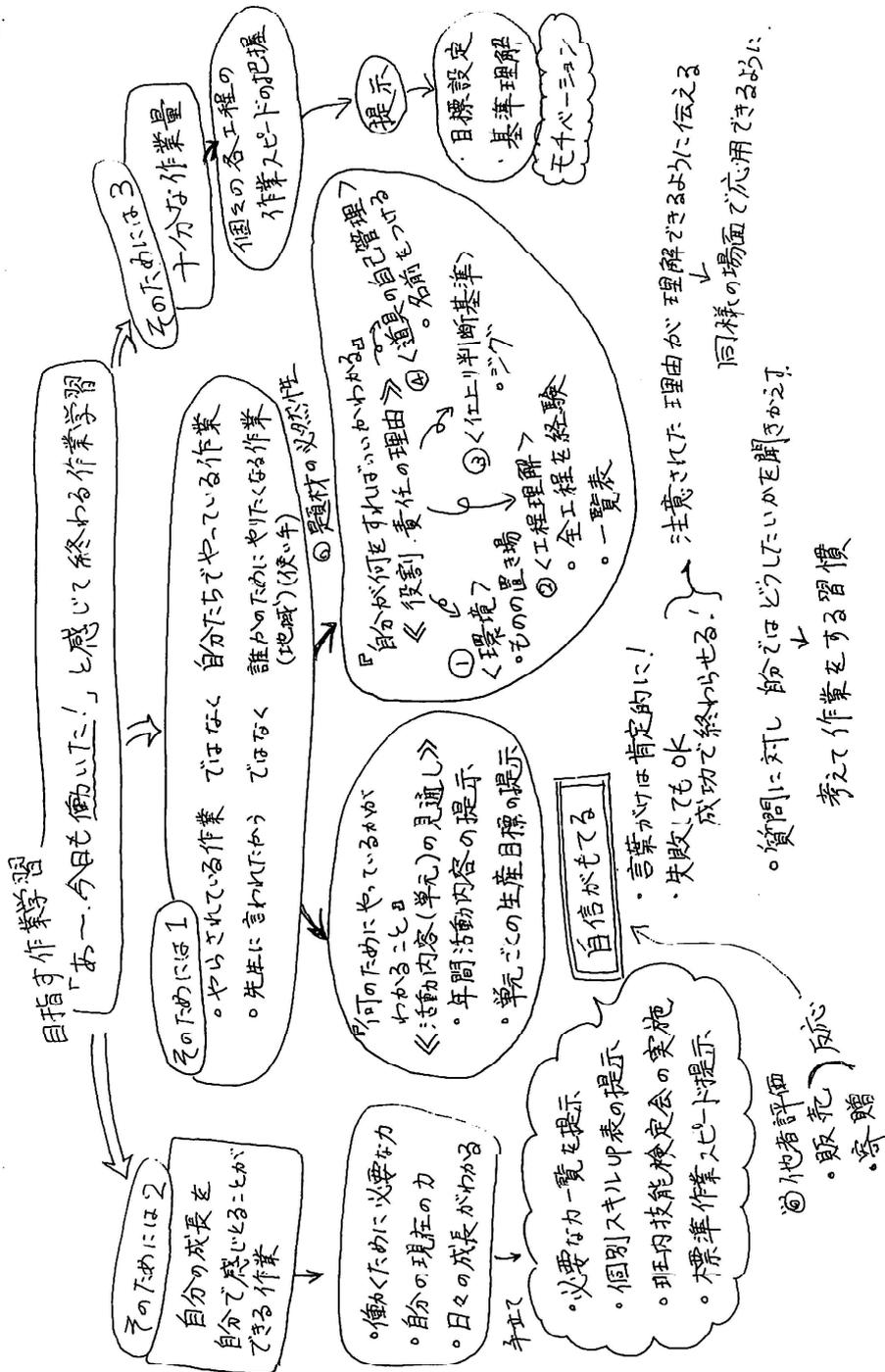
(2) 授業の改善

木工班では作業日誌の代わりに全てメモ帳を使っている。しかし、生徒によっては、作業日誌のように形式が決まっていた方が使いやすい場合もある。今後は個々に応じた形式の作り方やメモの取り方についても丁寧に指導していく必要がある。

また、今年度は、年間を通して「ままごとキッチン」を製作しているが、より多くの作業量を確保するためには、他の作業学習製品づくりと並行して行うことも考えられる。今後は、地域で盛んに行われているボート競技に着目し、カード立てやキーホルダーとして使えるような競技用ボートの模型の製作にも取り組んでいきたい。

資料 1 単元「ままごとキッチンづくり」の授業デザイン説明資料

2/2



資料 2

単元「ままごとキッチンづくり」の班内技能検定(例)

受検者	
-----	--

実施月日 12月11日

検定内容		Ⅱ 部材取り(飾り棚 2組)			
番号	観点	判定基準	判定員1 (○×)	判定員2 (○×)	点数
1	道具の準備・後片付け	必要な道具がそろっている。			
2		道具を使いやすいように置いている。			
3	機械操作	スライド丸鋸盤で切断できる。			
4	安全性	手の置き方、レバーの動かし方が適切である。			
5		足元に不必要な物がない。			
6	仕上がり	誤差が1mm未満である。			
7	速さ	2組を10分以内でできる。※角落としを含む			
8	報告・返事	相手の目を見てできる。			
9		相手に聞こえる声の大きさである。			
10		内容を的確に伝えることができる。			
得点			／20点		

合格点18点

検定結果	合格	不合格
------	----	-----

合格により先生への報告が免除される作業内容

資料 3

単元「ままごとキッチンづくり」工程分析表

工程	学習内容・活動	使用機械・道具	ねらいたい力	班で求める基準時間
I 製材	購入した板材（1800×242×22、1800×262×22）の両面をカンナがけする。	・カンナ盤	・協力 ・腕力 ・危険箇所理解	・板材 30 枚両面 2 回→60 分
II 部材取り	① 本体部 製材した板材から各部分の寸法どおりけがきする。 スライド丸鋸盤で線の上を切断する。	・スライド丸鋸盤 ・さしがね ・1 m 定規 ・鉛筆 2 B	・機械等操作 ・正確さ ・調整力 ・段取り	・背板 1 組→15 分 ・天板、側板、中板、底板、幕板 10 枚 →20 分 ・扉（1 組分）→15 分 ・飾り棚 1 組→5 分
	② 飾り棚			
	③ パーツ づくり	糸鋸盤で蛇口取手、扉取手、ガスコンロつまみ台等を切断する。	・さしがね ・鉛筆 2 B ・のこぎり ・糸鋸盤	・器用さ ・手指の動き
III 部材加工	① くり抜き・角取り 扉 B の窓部、天板のシンク部分を、糸鋸盤でくりぬく。 裾幕の下を糸鋸盤で、背板、飾り棚の角部分をスライド丸鋸盤で切断する。	・糸鋸盤 ・くりぬき型紙 ・コンパス ・ドライバードリル 3.0 ・さしがね ・スライド丸鋸盤 ・鉛筆 2 B	・機械操作 ・正確さ	・扉 B くりぬき 1 枚→10 分 ・裾幕型取り 1 枚→10 分 ・天板くりぬき 1 枚→10 分
	② 面取り ルータを使って、天板や扉の面をとる。 1 辺につき 3 度がけを基本とする。	・ボウズ型	・機械等操作 ・危険箇所理解 ・注視 ・加減	・側板、天板、中板、底板 10 枚両面 2 度がけ→5 分 ・扉片面がけ 10 枚上下辺 2 度がけ→5 分
	③ やすりがけ 紙やすりですべての部分の面と角をやすりがけする。	・紙やすり #120、#240 ・滑り止めマット ・マスク	・丁寧さ・仕上げ ・忍耐力・加減 ・脚力 ・腕力 ・むらのない動作	・天板、側板、中板、底板 1 枚片面→5 分（面取り込）
	④ 下穴・ダボ穴 板にネジ止め用の下穴、側板、天板に下穴とダボ穴をあける。	・型紙 ・鉛筆 2 B ・ドライバードリル 2.8 ・ドライバードリル 10	・注意 ・器用さ	・背板下穴あけ 1 枚→5 分 ・側板下穴、ダボ穴あけ 1 組（2 枚）→20 分 ・天板下穴、ダボ穴あけ 1 枚→5 分
	⑤ アクリル板等 取り付け 扉 B の窓部分にアクリル板、飾り棚にフックを取り付ける。	・タッカー ・フック（4） ・木工用ボンド	・精密さ ・加減 ・器用さ	・アクリル板取付け 1 枚→2 分 ・飾り棚フック付け 4 個→10 分
	⑥ マグネット 付け 扉の裏側と中板、底板にマグネットを取り付ける。	・精密ドライバー ・マグネット	・器用さ ・加減	・扉 A,B,C マグネット付け→15 分

IV 組立	① 本体部	底板、中板、底板、天幕、 裾幕を木ネジで接合す る。側面部はネジをダボ で隠す。	・木ネジ 30 インパ ・木工用ボンド ・ダボ 10mm 径 ・小のこぎり	・協力 ・機械等操作 ・正確さ ・手指の力	・接合 1 台分→15 分
	② 背板は ぎ	木工用ボンドで背板材 7 枚をはぎ合わせる。	・木工用ボンド ・はぎ合わせジグ ・ボンドとり筆・雑巾	・正確さ ・腕力 ・判断力	・背板はぎ合わせ→30 分
	③ パー ツ取 り付 け	ガス台、ゴトク、つまみ 台、立水詮と蛇口の接着 をする。 蛇口取手とガスのつま みは緩めの下穴をあけ 木ネジで取り付ける。	・木工用ボンド ・木ネジ 50、インパ ・木ネジ 30 インパ ・木ネジ 50	・加減 ・協力	
	④ 天板 取 り 付 け	本体部に天板を木ネジ で取り付け、ネジをダボ で隠す。	・木工用ボンド ・木ネジ 30 インパ ・ダボ 10mm 径 ・小のこぎり	・丁寧さ ・正確さ ・器用さ	・天板取り付け 1 台→10 分
	⑤ 扉取 り付 け	扉 ABC と本体部分を蝶 番で取り付ける。	・精密ドライバー ・蝶番・両面テープ ・きり・さしがね	・器用さ ・正確さ ・加減 ・協力	・扉 A,B,C 取付け→30 分
	⑥ 背板 取 り 付 け	本体部と背板部を木ネ ジで取り付ける。	・木ネジ 30 インパ ・木ネジ 50	・正確さ ・加減	・背板取り付け→10 分
	⑦ 飾り 棚取 り付 け	背板部の上から 10cm の高さに飾り棚を木ネ ジで取り付ける。	・木ネジ 30 インパ ・木工用ボンド	・協力 ・正確さ	・飾り棚取り付け→10 分
V 塗装	① ミル キー ホワ イト	扉、本体部、背板等を側 面、裏面、表面の順で塗 装（2 度塗り）する。	・塗料 ・刷毛 ・塗装用パケツ ・下敷き ・乾燥用台 ・マスキングテープ	・丁寧さ ・技 ・仕上げ ・むらのない動作 ・注意	・扉各 1 枚片面→2 分 ・背板表面（マスキング込） →10 分 ・背板裏面→10 分 ・側板 2 枚→10 分
	② ワト コオ イル	天板、飾り棚を塗装す る。	・塗料 ・ウエス ・下敷き ・乾燥用台 ・手袋	・丁寧さ ・技 ・仕上げ ・むらのない動作 ・注意	・天板 1 枚→5 分 ・飾り棚→10 分
VI 仕上 げ		完成した製品の表面に ついての木くずを拭き 取る。	・ウエス	・仕上げ ・丁寧さ	・拭き取り→5 分

～農園芸作業の実践～

高等部普通科 作業学習（農耕班：校内作業グループ）

題材「花を育てよう～夏・秋の花壇整備～」

「野菜を作ろう～丸ナスとシソの実の収穫～」

秋田県立大曲養護学校 教諭 石川 裕子

【題材の要旨・特徴】

栽培する花や野菜は、作業学習が週2日であることを考慮し、少ない手入れでも丈夫に育つ種類を選んでいる。花は、サルビアやマリーゴールドなど見頃が長く続き、摘花などの作業が設定しやすい種類を選んでいる。野菜は、営農実習先との一層の連携を考慮し、昨年度作付け計画を見直した。丸ナスやシソの実は、9月下旬からが収穫時期で、一定の収穫量が見込まれ、大仙市の特産である漬物などに加工しやすい種類を選んでいる。



【シソの実の収穫作業】

1 生徒の実態

本作業班は、1年生3名、2年生5名、3年生5名の計13名である。本校では、平成24年度から作業学習の時間帯に近隣の営農家宅に出掛け、豊富な作業量を経験しながら農作業の技術を学ぶ営農実習を行っており、生徒の目標や作業内容に応じて営農実習と校内作業の二つのグループに分かれて学習している。校内作業グループの5名は、農作業の経験は様々だが、播種や苗植えから収穫までの一連の作業を繰り返し経験することで、新しい作業内容でも戸惑わずに活動することができるようになってきている。

2 題材設定の理由

花壇には、サルビアやマリーゴールドを植えている。少ない手入れでも丈夫に育つとともに、定期的な摘花など繰り返しの作業内容が設定できる。また、プランターに植え替え、近隣の施設に設置することで、地域の方と触れ合う機会となり、生徒が地域のために働く気持ちをもつことができると考える。

丸ナスとシソの実は、漬物に加工しやすいことから、生徒が栽培から収穫、加工、販売までの流れを体験でき、地域の中で働く喜びややりがいを感じて作業できる題材である。

3 題材の目標

- (1) 花や野菜の取り扱い方が分かり、手順に従って作業する。
- (2) 自分たちが育てた花をプランターに植え替えて近隣施設に設置したり、収穫した野菜をスーパーで販売したりすることが分かって作業をする。

4 題材の指導計画（総時数30時間） *他の生徒は営農実習（資料1～3）を行っている。

小題材名・主な学習活動	時数	主な目標
花を育てよう～夏・秋の花壇整備～		
(1)花壇整備 ・花の摘み取り	20	・マリーゴールドやサルビアなどの花を見つけて、力加減を調節して花を摘み取る。
(2)プランターへの植え替え ・ケイトウの植え替え ・プランター設置	10	・茎を傷付けないように、根が張っている土の部分を持ち、花の苗をプランターに植え替える。 ・花の向きを考えてプランターを近隣施設に設置する。
野菜を作ろう～丸ナスやシソの実の収穫～		
(1)シソの実の収穫 ・収穫と片付け	(本時 6/20)	・シソの実をこぼさないように気を付けて、枝からシソの実を取る。
(2)丸ナスと金糸ウリの収穫 ・収穫と畑の片付け ・出荷作業、袋詰め ・漬け物加工	10	・実の付いた枝を見て、手やはさみを使い、金糸ウリやナスを収穫する。 ・金糸ウリやナスの加工方法を知り、漬け物の味や特徴が分かる。

*総時数30時間の中で、2つの題材を並行して行っている。

5 本時の授業

(1) 目標

決められた時間内で指定された場所のシソの実を収穫したり、畑を片付けたりする。

(2) 展開（本時は、1日作業のうちの午後作業である。）

時間	学習活動	指導の手立て及び留意点 ※□内はグループの手立てや配慮
5分	1 本時の作業内容を道具を見て知る。	・準備の時間を短縮するとともに、午後の作業内容が分かるように、生徒自身が道具を準備する時間を午前を設定する。
40分	2 各作業場所に移動して作業を始める。 【農場】 ・シソの実の収穫 【農場・堆肥置き場】 ・土寄せ、草運び	・野菜や道具の取り扱い方が分かるように、教師は生徒の近くで作業し、生徒の手本となる。 □ ・シソの実の取り扱い方が分かるように、T1は、指先を使った取り方の手本を示したり、シソの実の色や固さについて話したり、指さして注目させたりする。 □ ・1回に運ぶ量が分かるように、草を積み上げたり、目印の棒を用意したりする。
5分	3 作業を振り返る。	・本時の作業の出来栄や結果が分かるように、畑の様子を見せたり、収穫したシソの実を触らせたりする場面を設ける。
10分	4 道具を片付ける。	・短時間で終わられるように、洗浄や収納などの各作業を分担する。
20分	5 教室に移動し、日誌を記入する。	・次時の目標を設定し、日誌に記入できるように、本時の作業内容や褒められたことを質問したり、日誌に「50分はたらいた」などと行動を簡潔に整理して書いたりする。

(3) 実 際

高等部農耕班では、指導者全員が次の三つの事柄に留意して指導をしている。

- ・伝える内容を整理し、短く分かりやすく話したり、手本を見せたりする。
- ・生徒との距離を保ちながら生徒の動きを観察し、気づき、考え、判断する姿を見逃さずに指導する。
- ・安全な道具の操作や花や野菜の正しい取り扱い方を指導する。

指示を理解する力に差はあるが、上記の事柄を教師が行うことで、生徒全員が作業内容を理解し、2時間程度屋外で作業を続けられるようになってきている。

本時の授業では、シソの実の収穫と畑の片付けが主な作業内容であった。本時の題材となったシソの実は丈夫で素手で収穫ができ、鈴なりに実を付け、漬物にも加工できる。生徒の失敗が少なく、自分で判断して作業する姿が増えてきた。畑の片付けは、野菜の種類が違っても作業手順は同じである。収穫後の株を抜く、一輪車で堆肥置き場に運んで捨てるという一連の行動を繰り返すことで、生徒が次の行動を予測して一人で作業することが増えてきている。



6 題材の成果と課題

(1) 生徒の変容

草などの運搬作業の際、棒などの分かりやすい目印を設置することで、運搬先を覚えて一人で作業することが多くなり、運搬できる距離も延びてきた。畑作業に限らず、冬季の除雪作業でもこの方法を応用することで、スノーダンプを使った除雪作業が一人でも行えるようになった。

また、農舎まで駆け足で移動し、作業開始5分前には全員が集合して道具を準備したり、作業日誌を持ち帰り、自分の課題や次時の目標を記入したりするようになった。

(2) 授業の改善（下線はP12・13参照）

「授業デザインチェックリスト」の3・5・9・10の項目を中心に、単元ごとに生徒の目標に応じた作業内容になっているか、生徒が考え判断する課題設定になっているか、一人でも作業する環境設定になっているかを検討した。

また、「授業実践チェックリスト」を使って本時の作業内容や難易度の設定、生徒の動きに応じた教師の連携の在り方、運搬距離の延長、花壇と畑で作業する場合の教師の立ち位置や生徒の動線などを見直し、授業改善を繰り返した。

今後は、営農実習先や近隣の農業高校から農業に関する知識や技術を学び、得た情報を作業学習担当職員で共有した上で、年間指導計画の題材選定をしていく。また、成果のあった内容について、次年度以降も発展的に継続するよう、これまでの実践や情報を共有し、文書や写真資料として引き継いでいきたいと考えている。

資料 1

平成26年度 高等部作業学習（農耕班）営農実習 実施計画

担当：高等部 石川 裕子

1 ねらい

- ・学校で学んだ農作業の技術を生かし、実習先の方と一緒に作業することで、人と関わって働くことの楽しさや人の役に立つ喜びを感じる。
- ・営農の実際及び作業手順、要領を学び、長時間屋外作業ができる体力を付ける。

2 期 間

平成26年6月～平成26年11月

火曜日：9：00～12：10 木曜日：9：00～14：40

3 場 所

ナチュラル スタンス クラブ

（住所：大仙市内小友七頭59 TEL：0187-68-2532）

4 参加者

生徒9人、職員5人、計14人

5 移動手段

自転車：生徒は自分の自転車を使用し、職員は学校所有の自転車を使用する。

6 日程及び活動内容

- 9：10～ 9：30 学校出発（自転車で移動）
- 9：30～11：40 実習先到着・営農実習実施
- 11：40～12：00 実習先出発（自転車で移動）
- 12：00～12：40 学校到着・昼食（給食）
- 12：50～13：10 学校出発（自転車で移動）
- 13：10～14：20 実習先到着・営農実習実施
- 14：20～14：40 実習先出発（自転車で移動）
- 14：40～15：00 学校到着・下校

7 持ち物

帽子、ゴム手袋、軍手、タオル、長靴、合羽

8 その他

- ・事前に実習先に連絡を取り、作業内容や準備物について確認し、自転車移動、作業中ともに事故やけがのないよう実習を行う。
- ・昼食について、5月現在では、午前の作業を終え、学校に戻って給食を食べている。7月以降は、第I期高等部実習の個々の成果と課題を考慮し、通勤途中に昼食を購入し、実習先で昼食を取り、午後の作業を行う予定である。実施に当たっては、再度、実施計画を起案する。

資料 2

平成 26 年度営農実習の実施状況

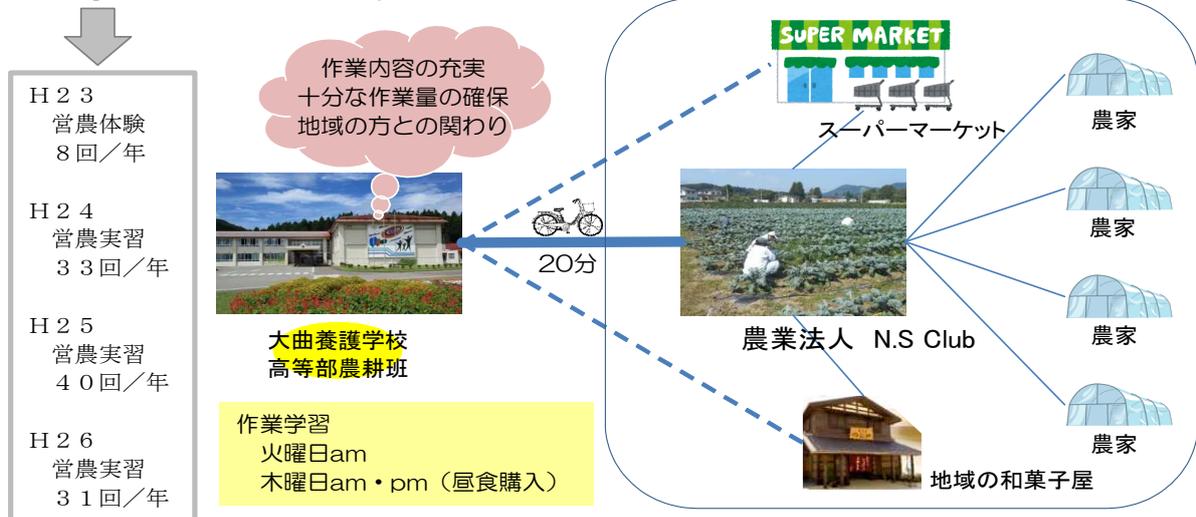
回	実習日	作業内容
1	6月 3日(火)午前	ナスの支柱立て
2	5日(木)午前 午後	青シソ、赤シソ、ヤーコンの定植 トウモロコシの播種 (2,000粒)
3	24日(火)午前	だし箱洗い
4	26日(木)午前 午後	↓
5	7月 1日(火)午前	だし箱洗い、モロヘイヤの出荷準備
6	3日(木)午前 午後	だし箱洗い、モロヘイヤの出荷準備 ブロッコリー畑の片付け
7	8日(火)午前	メロンの定植 (600本)
8	10日(木)午前 午後	モロヘイヤの出荷作業、ポットの土詰め ブロッコリー仮植 ※午後に営農実習先の佐々木さんが来校し、ナスの 収穫と袋詰めをした。
9	15日(火)午前	モロヘイヤの出荷準備
10	17日(木)午前 午後	メロンの定植 (250本)、モロヘイヤの出荷準備
11	18日(金)午後	イーストモールでのナスの出荷、売り込み
12	8月 28日(木)午前 午後	ハーブ畑の片付け、ビニールハウスの除草
13	9月 2日(火)午前	トウモロコシ畑の片付け
14	4日(木)午前 午後	ブロッコリー畑の除草
15	9日(火)午前	↓
16	16日(火)午前	モロヘイヤ畑の片付け
17	18日(木)午前 午後	ブロッコリー畑の除草
18	25日(木)午前 午後	ふかしナス漬け加工 ビニールハウスのマルチはがし、豆の選別
19	30日(火)午前	豆の選別、シソの実とメロンの収穫
20	10月 2日(木)午前 午後	ふかしナス漬作り、長ナスの収穫 メロンの畑の片付け
21	7日(火)午前	イーストモールにてメロンの試食販売
22	9日(木)午前 午後	長ナスの収穫、メロンの畑の片付け
23	14日(火)午前	ナスの袋詰め、花豆の収穫、オクラ畑の片付け
24	16日(木)午前 午後	長ナスの収穫と選別、オクラ畑の片付け
25	21日(火)午前	トウガラシの収穫、選別
26	23日(木)午前 午後	シソ畑とオクラ畑の片付け トウガラシの収穫、選別、袋詰め (100g×54袋)
27	28日(火)午前	トウガラシの収穫、選別、袋詰め (100g×30袋)
28	30日(木)午前 午後	ふかしナスの袋詰め (52袋) 金糸ウリの皮むき、ナス畑と花豆畑の片付け
29	11月 6日(木)午前 午後	つぼみ菜の定植 (1,200本)
30	11日(火)午前	ヤーコンの収穫と洗い、大根の皮むき (70本)
31	13日(木)午前 午後	ふかしナスの袋詰め (58袋)

資料 3

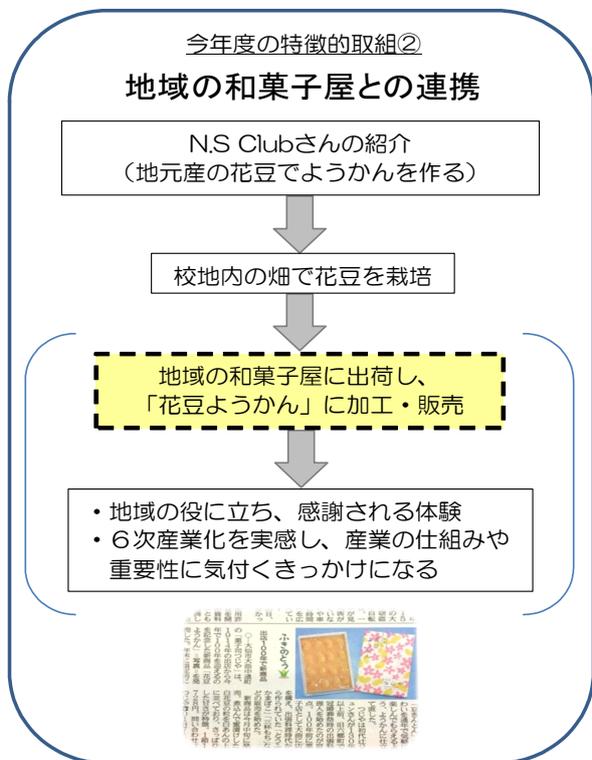
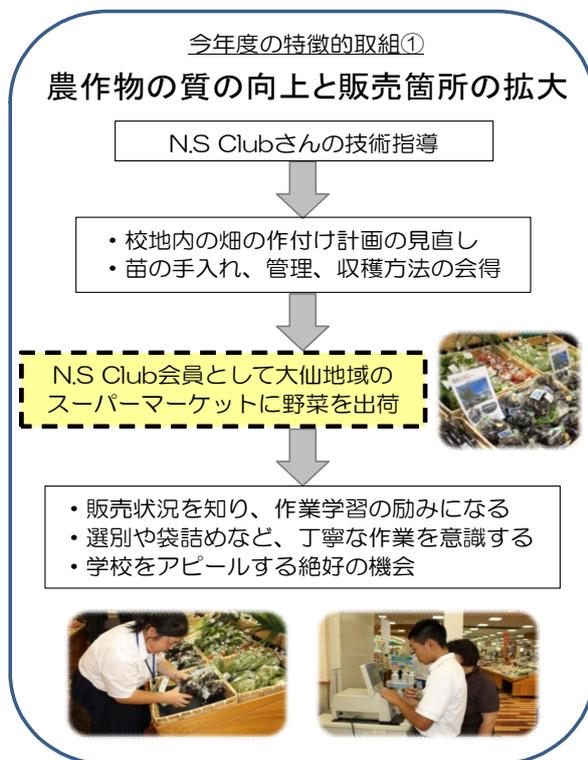
営農実習 3年間の取組概要と今年度の特徴的取組

秋田県立大曲養護学校

N. S Club代表の佐々木さんに青年学級
ふれあいハッピースクールの「手作り
おやつ」の講師を務めていただく。



	1年目 (H 2 4)	2年目 (H 2 5)	3年目 (H 2 6)
実践	<ul style="list-style-type: none"> 里芋の収穫 ジュースの梱包 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の苗の定植、収穫 出荷用野菜の袋詰め 漬物加工 	<ul style="list-style-type: none"> 播種、仮植、定植、除草、収穫 スーパーでの販売学習 栽培に関わった野菜を漬物加工
成果	<ul style="list-style-type: none"> 作業内容の充実 作業量の確保 生徒の姿の変容 	<ul style="list-style-type: none"> 実施回数の増加 外部評価による指導の改善 生徒の自覚の芽生え 	<ul style="list-style-type: none"> 指導内容の改善 外部評価の共有 地域の人材活用
課題	<ul style="list-style-type: none"> 実施回数の充実 評価の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ねらいと指導内容の改善 適切な自己評価と外部評価 	<ul style="list-style-type: none"> 販売箇所の拡大 校地内の畑の充実



～ビルクリーニング作業の実践～

高等部環境・福祉科1年A組 流通・サービス

題材「清掃用具の取り扱い方⑤～フロアスクイジー～」

秋田県立栗田養護学校 教諭 小松 良平

【題材の要旨・特徴】

環境・福祉科では、専門教科「流通・サービス」でビルクリーニングに関する知識と技能、態度の習得を目指して取り組んでいる。本題材では、床の汚水をかき取るフロアスクイジーを使用した作業を行う。生徒たちは入学後から段階的に技能の習得に取り組んでおり、フロアスクイジーは主要な6用具中5つ目の用具となる。フロアスクイジーはゴム刃の角度が重要になるため、正しい姿勢の保持や、水で転倒しないよう周辺への安全確認がポイントとなる。



1 生徒の実態

本学級は男子6名の集団である。全員が言語による指示理解は可能であるが、清掃中の自分の体の使い方や動作のこつの習得については個人差があり、直接的な支援が必要なときもある。

繰り返しの作業の中で、自分たちが清掃を学ぶ意義や、反復の重要性を教師が伝えることで、気持ちを切り替えたり、率先して作業に取り組んだりする様子が見られてきた。

生徒たちは入学後、タオル、ダストクロス、モップ、ウインドスクイジーの基本的な取り扱い方を学んでおり、資機材の特徴や場所に応じて自ら安全に気を配ったり、よりよい仕上がりを目指して状態を確認したりする姿などが見られるようになってきている。

2 題材設定の理由

生徒たちは、タオルなど手元で扱う用具から、モップのように全身を使ったり、周囲への安全がより求められたりする用具の使い方の習得を目指して、段階的な技能向上に取り組んできた。前の題材では窓清掃で用いるウインドスクイジーを扱い、手首や腕の動かし方に加え、スクイジーは水をかく用具であることを学んだ。今回、柄が付くことで作業範囲が広くなり、安全性や操作性が求められるが、フロアスクイジーの取り扱い方の習得には前題材で学んだことを生かすことができると考える。また、その周辺作業では、これまでに習得した清掃技術の定着を図ることができる。

今後は、トイレや教室など、場所ごとの清掃（校内清掃）に焦点を当てた実践的活動に移行する。また、2年生以降で行う、ポリッシャーを用いた床面洗浄の周辺作業としてフロアスクイジーを使用することから、今年度中に基本技能を身に付けておく必要があると考え、本題材を設定した。

3 題材の目標

- (1) フロアスクイジーの角度や正しい持ち方、動かし方を覚え、自分の姿勢や足の位置などを工夫しながら繰り返し作業に取り組み、効率的な水のかき取り方や、汚水を残さないような確認の仕方を身に付ける。
- (2) フロアスクイジーを用いた清掃に必要な用具や安全な取り扱い方を知り、自ら準備・片付けを行う。

4 題材の指導計画（総時数10時間）

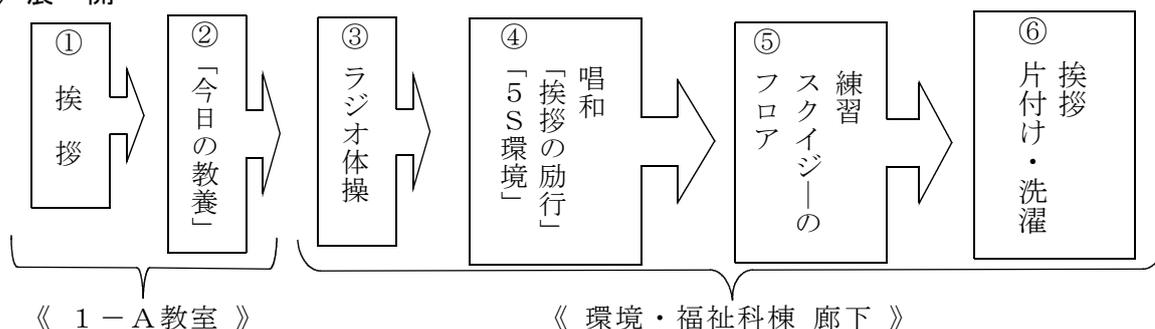
小題材名	時数	目 標
(1)フロアスクイジーの使い方① ・清掃用具の名前、持ち方 ・基本的な動かし方	4	・床の汚水をかき取る清掃に必要な用具とその名称が分かる。 ・担当区域内で繰り返し水を動かし、フロアスクイジーの扱い方に慣れる。
(2)フロアスクイジーの使い方② ・汚水のまとめ方、かきとり方	4 (本時 3/4)	・ちりとりとフロアスクイジーの位置、自分の立ち位置や姿勢についてより効率的な動きを考えながら繰り返し水をかきとる。
(3)フロアスクイジーの使い方③ ・清掃検定	2	・清掃検定の練習や本番に取り組む中で、自らの成果と課題を確認する。

5 本時の授業

(1) 目 標

- ① 清掃に必要な用具が分かり、自ら準備・片付けを行ったり、正しい持ち方で移動したりする。
- ② 汚水を効率よくかき取るために、自分の姿勢や立ち位置、フロアスクイジーの角度や動かし方等、気を付ける点を確認して繰り返し作業に取り組む。

(2) 展 開



(3) 実 際 (次ページ資料参照)

生徒たちが、毎回行っている「挨拶」(前ページ展開①)や「5S環境」「挨拶の励行」唱和(展開④)では、最初は全員のタイミングが合わずに、教師からやり直しを求めた場面もあった。清掃クルーとしての協調性もねらいとしているので、その場で修正することで、正しい挨拶や姿勢、周りとの息を合わせる態度などの向上を図った。

「今日の教養」(展開②)は、社会生活を送る上で有用と考えられる教訓を、授業内容と関連付けながら説明した。本時ではイソップ寓話を用い、自分の動きや仕上がり具合の確認を行うことが、作業の質の向上につながることを伝えた。

準備体操はラジオ体操を中心に行った。本授業においてラジオ体操は、主に「けが予防(体操をしながら、体に不安な部位がないか確認する)」「体の使い方やリズム感を覚える(正しい動きや左右の順番を考えながら行う)」をねらいとしている。個人差はあるものの、正しい動きが少しずつ定着してきた。

フロアスクイジー(以下スクイジー)の練習(展開⑤)では、生徒たちは効率よく水をかき取るために、スクイジーを持つ手の位置や安定した姿勢の保持、水をかき取る際にちりとりの後ろに立つことなど、生徒それぞれが自分の課題の修正を目指して取り組んだ。生徒たちは、スクイジーの取り扱いに慣れてきたこともあり、教師からのヒントをもとに自分で考えながら取り組む様子が見られた。また、廊下で作業を行ったことで、生徒たちは仲間や壁にぶつからないよう、周囲の安全確認を行いながら、繰り返し取り組む様子が見られた。

6 題材の成果と課題

(1) 生徒の変容

当初は、水をかき集める工程で思うようにまとめることができなかつたり、水をかき取る際に、自分の作業服に水をかけてしまつたりした様子も見られたが、繰り返し取り組む中で、スクイジーを持つ位置や姿勢などを自ら考えながら取り組む様子が見られた。また、周囲に気を配るなど、安全面を意識して取り組むようになった。

(2) 授業の改善

清掃はものづくりの作業と異なり、達成感や成就感をその場で感じにくい作業種である。生徒がやりがいや誇りをもち、より意欲的に取り組むための視点を大事にし、学習活動により必然性をもたせるなど学習環境の設定や工夫を心がけていきたい。

本授業では、最初の段階である程度の基本動作を指導し、作業を繰り返し、習熟の度合いに応じて徐々に課題の修正を図っていくという方針で取り組んだ。今後は、タブレット端末で撮影した動画を使ってその場で確認し、姿勢や用具の動かし方などを修正したり、互いの様子を見る機会を設けたりするなど、本人の理解度をより深め、自ら学ぼうとする手立てを講じていきたい。

【資料】

1 授業の様子 (P29本時の授業(2)展開参照)



②「今日の教養」
イソップ寓話を使用し、古くから伝わる様々な教訓を授業内容と結び付けて学ぶ。



③ラジオ体操
けがの予防と体の使い方を覚えるため、左右の動きやリズムを意識して行う。



④「5S環境」
「挨拶の励行」唱和
歯切れのよい挨拶、礼などの姿勢、仲間と声が合っているかなどを意識して行う。



⑤フロアスクイジーの練習
《資機材の準備、移動》
素早い準備、安全な持ち方をお互いに確認する。



⑤フロアスクイジーの練習
《汚水集め、かき取り》
ゴム刃の角度、方向に気を付けながら繰り返し行う。



⑤フロアスクイジーの練習
《拭き上げ》
以前覚えたモップの復習も兼ね、残った水滴をモップで拭く。

2 「5S環境」について

「整理」……………いるものといらないものに分けて、いらないものを捨てる。

「整頓」……………いるものを使いやすいように置き、誰にでも分かるように明示する。

「清潔」……………整理・整頓・清掃の3Sを維持すること。

「清掃」……………常に掃除し、きれいにすること。

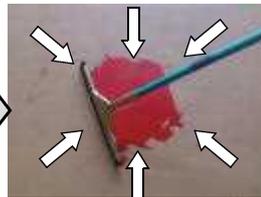
「躰(しつけ)」……………決められたことを、いつも正しく守る習慣付けのこと。

<「特別支援教育清掃マニュアル」(社団法人東京ビルメンテナンス協会発行)より引用>

3 フロアスクイジーの作業工程 ※分かりやすいよう水に色を付けている。



Tがまいた水



水を1か所にまとめる。



水たまりの右端からスクイジーでかきとる。



ちりどりのゴムとスクイジーのゴム刃が平行になるように動かす。

3 平成26年度作業学習エキスパート養成研修会

概 要

【目 的】

該当する作業種の実践研修や優れた実践の共有等を通して、各特別支援学校における作業学習の中核となる人材を養成し、職業教育の質の向上を図る。

【各研修会の概要】

回	概 要
1	<p>○全体研修～6月10日（火）県庁第二庁舎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師 特別支援教育課（課長、指導主事） ・内容 講義「就業に向けた作業学習の在り方」 講義・演習「作業学習における実態把握、教材研究、指導計画、評価」 講義・演習「具体的な変容を促す指導と作業学習の指導実践」
2	<p>○ビルクリーニング作業～6月19日（木）県立栗田養護学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師 県立栗田養護学校 非常勤職員 富谷 茂樹 氏（友愛ビルサービス教育部） ・内容 講義「ビルメンテナンスの基礎知識」 演習「ビル清掃の基礎作業」
3	<p>○木工作業～8月29日（金）能代市技術開発センター・木の学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師 能代市技術開発センター・木の学校 指導員 原田 明 氏 ・内容 各校作業学習製品への助言、木の学校の作品紹介 演習「木工の基礎理解・基本技術～ティッシュボックスの製作～」
4	<p>○農園芸作業～9月26日（金）県立金足農業高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師 県立金足農業高等学校 教諭 渡辺 均 氏（農場長）ほか ・内容 各校農産物・加工品への助言 講義・演習「園芸作物における土づくり、播種、管理方法の基本」 講義・演習「果実ジャムのゲル化作用と殺菌方法」
5	<p>○陶芸作業～10月7日（火）県立ゆり養護学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師 県立ゆり養護学校 教頭 中野 洋一 氏 ・内容 講義「作業学習の基礎」「陶芸の基礎」「作業学習としての陶芸の基礎」 鑑賞「様々な陶芸製品と各校の作業学習製品」 演習「地場産粘土を使った器づくり」
6	<p>○縫製作業～10月22日（水）大仙市・神岡福祉センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師 神岡リフォーム教室 主宰 千葉 孝 氏 ・内容 各校作業学習製品への助言、神岡リフォーム教室の作品紹介 演習「バッグの製作」

参考：作業学習エキスパート養成研修会受講者一覧

【平成25年度】

No.	学校名	作業種		
		木工	農園芸	ビルクリーニング
1	秋田きらり支援学校		熊谷 道大 (比内)	
2	比内養護学校	日景 清悦 *全体研修のみ		
3	かづの分校	田中 雄介	小塚こずえ	廣川 佳世
4	たかのす分校	藤本 博明	鈴木 顕 (横手)	
5	能代養護学校	北林 拓哉	伊藤 和樹 (栗田)	鈴木 英揚
6	天王みどり学園	由利 和也	鈴木 崇 (横手)	伊藤 学
7	栗田養護学校	工藤 思郎	鈴木 雄裕	小松 良平
8	ゆり養護学校	小山 高志	高山 知子	黒木 良介
9	大曲養護学校	赤川 裕通	石川 裕子	高田 俊彦
10	横手養護学校	工藤恵喜夫	井上 裕子	後松慎太郎 (センター研修員)
11	稲川養護学校	木村 栄一 (栗田)	佐藤 幸徳	大川 康博
12	附属特別支援学校	栗田 寿		柳田 栄基
計		10	10	9

() 平成26年度異動先

【平成26年度】

No.	学校名	作業種				
		木工	農園芸	ビルクリーニング	陶芸	縫製
1	比内養護学校	藤田 泰幸	中津川辰裕	小笠原 行	佐藤 和春	成田あづさ
2	かづの分校	乾 伸一	畠山 純	工藤 智史		
3	たかのす分校	伊藤 亮				畠山恵理子
4	能代養護学校	渋谷 真二	柴田 豪	鎌田亜希子	武田 奈穂	佐々木 好
5	天王みどり学園	樋渡 峻	大塚 昌和	齊藤 舞子	菊池美佳子	田村 沙織
6	栗田養護学校	鷺谷 和	銭谷 寿	今井 彩	渡會 義信	相原 祐子
7	ゆり養護学校	京屋 敦	朝倉 知司		長谷恵美子	佐藤あゆみ
8	大曲養護学校		阿部 圭但		松田 宏	小西ゆり子
9	横手養護学校		小玉 智彦	塚本 竹美		
10	稲川養護学校	沓澤 直樹	斎藤 健	伊藤 由紀	谷藤 弘美	加藤 暁子
11	附属特別支援学校			佐々木克巳		
計		8	9	8	7	8

3 平成26年度作業学習エキスパート養成研修会

作業種別研修の要点

【木工作业】

「木工の基礎理解・基本技術 ～ティッシュボックスの製作～」

- ・木の見方や置き方、工具や機械の特性など基礎を知り、身に付ける。
- ・塗装の工夫など仕上げ・見栄えも大事にする。
- ・製品の開発や工夫においては発想を豊かにする。



木取り作業「手押し鉋盤」

【農園芸作業】

「園芸作物における土づくり、播種、管理方法の基本」
「果実ジャムのゲル化作用と殺菌方法」

- ・園芸の土は「ふわふわで、やわらかい土」がよい。
- ・ジャムづくりでは衛生面、特に瓶の殺菌が非常に重要である。
- ・ラベルを工夫するとよい。安心・安全の役割もある。



いちごジャムづくり

【ビルクリーニング作業】

「ビルメンテナンスの基礎知識」「ビル清掃の基礎作業」

- ・一つ一つの動きを丁寧かつ十分に行い、基本の定着を図る。
- ・お客さんを意識するなど、清掃や動きの意図を伝える。
- ・教師の動きがモデルとなる。



基本作業「タオル～たたみ方」

【陶芸作業】

「作業学習・陶芸の基礎」「様々な陶芸製品等の鑑賞」
「地場産粘土を使った器づくり」

- ・陶芸は土づくりから始まり、とてもいい作業活動になる。地場の素材を生かすとよい。
- ・陶芸の特色は、素材の大量処理である。
- ・鑑賞を通して様々な角度から製品を見る目を養う。



西目産粘土を使った器づくり

【縫製作業】

「バッグの製作～着物の帯等の活用～」

- ・素材集め・素材選びが重要であり、入手が容易な身近な素材を活用する。
- ・丈夫さ、光沢、生地デザインなど素材の価値を生かす。

